

試用労働者 男二四。 女五。 計二九一名  
三、労働者側

爭議参加者 全員

加盟労働組合 總同盟東京革工組合西新井第一支部

組合加入、爭議参加者 男一四〇名

四、爭議発生、時 昭和四年十一月二日

五、爭議発生原因

会社ハ大正十四年一月作業開始以來引續キ事業不振ニテ自下一月約一万八千  
並ノ生産ニ對シ販賣率ハ其約半數ニ過キス現在六万二千七百足ノ「ストック」  
品アリ此現狀ヲ持續セハ工場閉鎖ノ止ムナキニ至ル狀態ニテ折衝策ニ苦慮シ  
居タルカ此ノ際職工ノ大量解雇ノ外途ナシトシテ本月二日午後二時全職工ヲ會  
社食堂ニ集合セシメ代表者岡崎遠平ヨリ今回職工五十名ノ解雇迄高給者二十名  
名ノ減給ヲ為ス旨簡單ニ發表シタル後「澤文」配人ヨリ「万」ヲ得サル處置ニ出  
テタリト解雇及減給ニ至レル詳細ノ經過ヲ述ヘ遺憾ノ意ヲ表シタルカ職工側ハ  
會社ノ窮況ニアル事實ヲ知悉シ居ルル為之ヲ諒トセルモ不取對策ヲ講スルコ  
ト、セリ

六、要求並ニ交渉状況

(1) 職工側ハ會社ノ整理業發表ニ對シ本件ハ重大問題ナルモ可成合法的ニ交  
渉スヘキ必要アリトシ幸沢園太郎外十九名ヲ交渉委員ニ選任シ今日午後四時  
ヨリ會社右接間ニ於テ室沢文配人ト會見シ今回ノ問題ハ計畫的ナリニヤ否ヤ  
ト訊ニタルニ室沢文配人ハ「財界疲弊ニ依ル事業不振ニテ何等計畫的ノモノニ  
アラサル旨ヲ詳細ニ述ヘタルカ何等具體的交渉ニ移ラヌ再會ヲ約シテ會見ヲ  
了セリ

(2) 本社交渉委員二十名ト十一月三日會社右接間ニ於テ室沢文配人ト再會シ吾々  
ハ此ノ際全員ノ賃金一割引下ナ其他各種消耗品ノ節約食料及慰安ニ對スル補  
助金ノ撤廃各等ストーブノ廢止等ニ依リ約六十金圓(一日)捻出シ得ラル、  
ト以テ可成解雇者ノ數ヲ減少サレタシト希望シタルニ室沢文配人ハ「諸氏ノ誠  
意ハ有難クモ會社ハ此際一日ノ製造高三百六十足トセハ百五十人ノ解雇ヲ必  
要トスルニ精々ノ事情ヲ奉酌ミテ最低限度ヲ發表シタルニ付已ムヲ得サルニ  
ナリト答ヘタルニ委員等ハ一應無談ノ上再交渉スヘシトナシ退出セリ

(3) 交渉委員ハ十一月四日室沢文配人ト交渉ノ續行ニ解雇者ノ數ニ於テ懇談一  
間ニ互リタルカ會社側ノ態度強硬ナル為結局解雇者五十名ヲ容認スル意ト  
リ解雇手筈ノ問題ニ移リ會社側カ一年勤続者ニ對シ日給三十日分一年以  
一ヶ月ヲ増大毎二日給一日分ヲ支給スル旨發表シタルニ對シ職工側ヨル

(A)